

## 子どもの権利条約ネットワーク設立 30 周年記念企画 (1)

# 特集 日本の子ども参加 —何が変わったか—



1991 年 11 月に設立した子どもの権利条約ネットワーク (NCRC) は、設立以来 30 年間、単なる「子どもの権利保障」だけではなく、「子どもとおとなは未来を創るパートナー」の視点を大事にし、子どもも一人の主権者として、子どもが地域や社会に参加していくための場創り、意識啓発、ファシリテーター養成等、活動を展開してきました。

今回の総会イベントにおいては、こうした 30 年間の歩みをふりかえり、これからの子ども参加のための課題について、多彩なゲストと深めました。

「ハレの日の子ども参加だけではなく、日常の参加も」「子ども参加の代表性」「地方と東京における支援者の学びの格差」「東日本大震災後の子どもの参加」「子ども観のとらえなおし」「支える側になって見えてきたこと」「子ども会議の決定に、おとなが覚悟できているのか」「責任・義務ではなく、お互いに尊重

しあうことの大切さ」「学校内の居場所、学校外の居場所」「ひとりの人として、子どもと向き合う」

イベント内で出てきたこれらのメッセージは、どれも、ゲストの活動を通じて見出されてきたものであり、重みがあります。とともに、こうした意識を持つことが大事ではあるけど、それを実践するには難しかったりもします。

とはいえ、子どもも一人の人間であり、市民です。子ども時代の参加がなければ、おとなになっても、参加する意識を持つことは難しくなります。

子ども自身が安心して話せる、失敗できる、参加できる、受けとめてもらえる。そうした場を日常化するために、私たち、おとな自身の力量が、いま、問われています。

林大介 (子どもの権利条約ネットワーク事務局長)

## NEWS LETTER No.145 CONTENTS

### 特集 日本の権利条約ネットワーク設立 30 周年記念—

#### ■ (1) 特集

シンポジウム: 日本の子ども参加—何が変わったか— 1

コーディネーター: 林大介

シンポジストの発言 奥山 桂子さん・半田 裕さん・  
原 京子さん・圓谷 雪絵さん・吉川 恭平さん

#### ■ (2) NCRC が創り出してきたものは何か —その成果と課題—

#### ■ (3) NCRC 年表で綴る「子どもの権利」の歩み

子どもの権利条約ネットワークの 30 年  
—子ども参加を軸としてふりかえる— 12

年表 A 1990 年～2011 年 14

年表 B 2012 年～2021 年 16

かわさきフォーラムコーナー 19

手を取り合ってにじいろの未来へ笑顔で歩もう!

—コロナに屈せずに

#### 本の紹介

今だから明かす・条例制定秘話 20

# コロナ禍の中、子どもたちの声を聴く

## —子ども参加の現状と課題

おくやま けいこ  
奥山 桂子

認定 NPO 法人国際子ども権利センター(シーライツ) 事務局長

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン東日本復興支援事業部プログラム・スペシャリストとして東北の子ども支援団体への助成事業等を担当。その後、現職にてカンボジア及び日本での子どもに対する暴力防止及び子どもの権利普及活動に携わる。

特定非営利活動法人国際子ども権利センター(以下、シーライツ)は1992年に大阪で設立されて以降、子どもの権利普及のための活動を国内外で展開してきました。シーライツのビジョン「すべての子どもがあらゆる暴力から守られ、子どもの権利、特に参加の権利を実現していく社会を目指します」にあるように、シーライツはとくに「子ども参加」を重要視しています。

子ども参加を実現するうえで非常に重要な「子どもが自分の気持ちや意見を自由に表現できる」ようにすること、そしてそうした「子どもの声を聴き、その思いを受けとめる」ことができるおとなを増やすための活動をしています。

2020年、シーライツではアユス仏教国際協力ネットワーク『街の灯』支援事業より支援をいただき「コロナ禍の影響を受けた子どもたちの声を聴く」として、様々な子どもたちと団体に対して調査を行い、報告書をまとめました。以下、簡単に記載します。

### 1. コロナ禍がもたらすストレス、親からの暴力・虐待

おとなも子どもも多大なストレスを抱えており、特におとなのストレスが「どなる」「叩く」などといったかたちで子どもに向けられました。

### 2. 経済的困窮、母親への負担、孤立化

特に母親の家事負担が増加し、母親のストレスと孤立化が虐待のリスクにつながっています。

### 3. LGBTQの子どもたちが受けるコロナ禍の影響

家族にカミングアウトしていない子どもたちの場合、当事者団体などが運営する居場所へ行くことが困難になりました。

### 4. 不登校の子どもたちが受けるコロナ禍の影響

「学校に行かなければいけない」というプレッシャーからの解放を感じる子どもたちがいる一方、家庭内の親子間のストレスの高まりによる虐待リスクがあります。

### 5. 暴力・性被害を受ける少女たち

コロナ禍でのインターネットへのアクセス増加により、オンライン上での性被害についての相談件数が増加しています。また自宅にいられないため家出した少女が性的搾取にあうリスクが高まっています。

### 6. 外国にルーツをもつ子どもたち

オンライン授業になったことで個別のフォローができず授業についていけない子どもたち、経済的に困窮する子どもたちがいることがわかりました。

こうした課題はこれまであった問題が顕在化、深刻化している状況だと認識しています。子どもの声を聴き、受け止める社会になるために「子ども基本法」を土台とした社会の仕組みづくりが重要だと思います。

# 市民としての子ども参加を求めて

はら きょうこ  
原 京子

## こどもフォーラム

2001 年、「子どもの参画」をミッションに NPO 設立。2008 年より指定管理者として児童館運営に子ども参画を取り入れる。2012 年子どもの権利条約フォーラム in あいち事務局長。2013 年石巻市に移住し、子どもの権利を柱に子ども参加で運営する児童館石巻市子どもセンターの運営基盤づくり支援、2014 年から施設長。2016 年名古屋に戻り伊勢志摩市民のサミットを機にこどもフォーラム設立。子どもアドボカシーの普及啓発に取り組む。

実践者として子ども参加を 20 年近く取り組んできた経験から、子ども参加には 3 つのアプローチがあると考えています。一人ひとり個人としての子ども参加、ステークホルダーとしての子ども参加、そして市民としての子ども参加です。子どもが市民の一人としてまちづくりや子ども施策等に意見を述べる子ども会議等は子どもの権利条例のある自治体ではあちこちで取り組まれています。しかし、一部の子どものものであること、年に数回の機会であることが多くもどかしさを感じていました。

名古屋市児童館の指定管理者が公募され、応募の準備のために児童館の様子を調べた時に、子どもたちのための施設であるのに、色々な行事や過ごし方も職員主導で決められていて、子どもたちは利用するだけのお客さんであることに驚きました。これは児童館だけでなく、子どもに関わる多くの施設の現状ではないかと思います。これでは子ども参加がすすまないのは無理もないと思い、児童館を運営するようになってからは意識して日々の活動の中で子ども参加を試みることにしました。まずは日々過ごす中で一人ひとりの考えや思いを聴き、やりたいことがあればそれを職員が伴走しながら実現していく。気持ちや考えを受け止められるだけでも子どもはエンパワメントされ、子ども自身が自分のまわりに関心を持ち、その環境に働きかけるようになります。そして、日々の子ども参加の積み重ねが市民としての子ども参加につながっていきます。それを実現したのが石巻市子どもセンターらいつです。

東海地域では多治見市と豊田市の子ども会議が途切れることなく続いています。以前は中高生の居場所づくり活動として高浜市に「バコハ」、日進市に「じゃねぷろ」があり、子ども参加が活発に取り組まれていました。しかし、居場所がなくなるとともに活動も終わってしまいました。この経験から、子どもたちがいつでも行けるところに子ども参加が実現する場や機会があることが大切で、それは子ども参加を広げていく土台になると感じます。

2016 年児童福祉法に子どもの権利条約のことが入ってから子どもの権利のことをもっと知りたいという声が増えてきています。課題は、子どもに関わるおとなが子どもの権利に基づいた子どもとの関わりをどうしたらいいかわからないこと。指導的で管理的な関わり方を子どもの権利を基盤としたものに変えていく。今その時がきていることを感じています。

# 子どもたちの“本気”度が問われた子どもも参加 —長野県の子どもも参加の現状と課題

はんだ ひろし  
半田 裕

## NPO法人ちやいんどふっど

2017年子どもの権利条約フォーラム in 信州実行委員長。高校生時代に長野県茅野市の中高生の居場所施設「C HU KO らんどチノチノ」の建設・運営を行なったことをきっかけに、子どもの権利や子ども支援に興味を持つ。現在はプレーワーカーとして冒険遊び場や放課後の居場所づくり、子どもの社会参画支援を行っている。



## 2度のフォーラム開催

長野県ではこれまで2回のフォーラムが開催されました。1回目は2007年、テーマは「ぼくらにだって言いたいことがある」。この時の子どもたちはおとなから色々と言われる事が多く自分たちの声をもっと聞いてもらいたいとこのテーマになりました。当時は子どもたちの参加が少なく、エンディングでの会場とのリレートークでは県外の方から「長野は子どもの参加が少ない!」との意見が出されました。それに対して子ども達は「自分たちが一所懸命にやってきたことを分かっしてほしい」と本音を語ってくれました。おとなはフォーラムの一つの評価として「どれだけ多くの子どもが参加しているか」に目を向けてしまいがちですが、子ども達がどれだけ本気で取り組んできたのかに目を向ける事の大切さを考えさせられました。

その後2017年に再度フォーラムが開催されました。この10年での地域の変化は子どもたちが自分たちの居場所を作りたいと声を上げ、それを応援したいというおとなと一緒に活動が行われている時期でした。子ども実行委員も20名以上が集まり、テーマは「信じよう子どもの力とおとなの心」となりました。前回のテーマと違い子どもとおとなが支え合って進んでいくとい

う想いが込められ、10年での子どもとおとなの関係性の変化が感じられるフォーラムとなりました。

## 子ども参加で大切にしたい事

### ① 子どもの力を借りよう、おとなも力をかそう

おとなはどうしてもおとなだけで物事を進めていこうとしてしまいがちです。子ども達にも自分達で考えられる力があります。子どもたちに関わる事はもちろん、それ以外の事も積極的に子どもたちに意見を聞いて

いきたいと思っています。また子ども参加を進めていく上で子どもたちからよく出るのが「おとなが聞いたことしか聞いてもらえない」「話を聞いてくれても結局実現しない」と言った声です。おとなにとって都合の良い子どもの声を聞くだけにならないようおとなも子どもたちに力を貸していこうと思います。

### ② やりたいことってなんでもいい

子どもたちと企画等を考えている際にどうしておとなは子どものやりたい内容を評価してしまいがちです。「地域のにとって良いかどうか」「社会の役に立つかどうか」ではなく、まずは子どもたちが「やりたい!」と思っていることを一つ一つ実現していくことで子どもたちがどんどん色々なことに参加したいと考えるようになっていくと思います。

# 東日本大震災と子ども支援・子ども参加

よしかわ きょうへい  
吉川 恭平

石巻市子どもセンターらいつ副館長  
NPO 法人子どもにやさしいまちづくり代表。

2011年3月に大学卒業後、公益社団法人セーブザチルドレンジャパンのスタッフとして、被災地の子ども支援活動に取り組む。他にも、自治体による子ども会議などまちづくりにおける子ども参加活動や子ども子育て支援団体のネットワークづくりに取り組む。(NCRC 運営委員)

2011年に発生した東日本大震災から10年。この10年で、被災地では、様々な子ども支援・子ども参加の取り組みが行われました。今回は、筆者自身が10年間の活動を通して、気づいたこと、見えたことをお伝えできればと思います。

復興計画に対して子どもたちが意見書を提出するなど東日本大震災直後から様々な形で子ども参加の取り組みがみられました。しかし、その取り組みが続いている地域は多くありません。一方で、子ども・若者たちの拠点となる場が生まれた地域は、取り組みが続いています。子どもたちが企画デザインに参加してつくられた「石巻市子どもセンターらいつ」(宮城県石巻市)、「高校生が楽しく話し合いながら気仙沼を盛り上げる!」をテーマに活動する「底上げYouth」、そこからさらに発展して生まれた「気仙沼プロジェクト」(宮城県気仙沼市)、高校生を中心とした若者の主体的な活動をサポートしようと活動している「みっこベース」(岩手県宮古市)など東日本大震災から

10年が経過したいま子どもたちの主体的な活動をサポートし、地域とつなげる役割を果たしています。もたちはいま若者として、様々な形で、まちの担い手になっています。1人の若者として地域の中で、新たなプロジェクトを進めていく若者。自分が卒業した活動を今度は支援者として支える側となりサポートする若者。震災後に生まれたそれぞれの一步がいま新たな形で芽吹いています。

東日本大震災の被災地である東北は、東京など首都圏に比べ、先進的な施策や条例をもつ一部の自治体を除き子ども子育てに関わる支援が公的なものに限られているのが現状です。NPO そのものの数も少なく、NPO に対する理解や NPO の活動を支える制度や環境も十分ではありません。取り組みを通して、子ども若者の参加を実現するとともに、まちの仕組みや地域を変えていく。そんなことが東日本大震災から10年経ったいま求められていると思います。

## 子ども参加サポーターはなくてはならない存在

—子どもとして参加していたときの思いを伝えたい

つぶら や ゆきえ  
圓谷 雪絵

子どもの権利条約フォーラム 2021 in かわさき実行委員会事務局 長

2001年に策定された「川崎市子どもの権利に関する条例」に子ども委員(当時)として関わり、その後10年間川崎市子ども会議のサポーターとして活動。現在は、かわさき子どもの権利条約フォーラムの事務局として活動。(NCRC 運営委員)

私が川崎の子ども参加事業に関わったのは、中学3年の1998年「川崎市子ども夢共和国」からでした。翌年には、子どもの権利条例を作るための「子ども委員会」のメンバーとしても活動し、条例制定後には「子ども会議準備会」「子ども会議サポーター」と2012年ごろまで活動し、2018年からは条例を作った当時のメンバーを中心に「かわさき子どもの権利フォーラム」を設立し、自分たちのできる範囲で条例の普及啓発活動をしています。

今回は私が「子ども」として活動していた時に感じていたこと、これからの思いについて伝えたいと思います。

子ども夢共和国で活動していた2年間、通常では出会えない市内全域の小・中学生に出会い、高校生や20代のサポーター・市の職員などの異年齢の出会いがたくさんありました。私の場合は「活動をするために参加していた」というよりは、「みんなに会うため」に参加していたように思います。高校1年から参加していた「子ども委員会」でも、異年齢の交流を楽しみに参加していました。

特に、子ども委員会での活動でおとなと一緒にの会議に参加しているときには、子どもにもわかるように注意しながら

会話してくれる場面も多いのですが、子どもたちが意見を出しやすいような雰囲気作りをしてくれる若者のサポーターがいることで、条例制定のための会議という難しい場所でも参加することが楽しみでした。

私が参加し始めた時にはすでにサポーター制度があり、子ども会議をどのような形にするかを決めるときにもサポーターはいてほしいという子どもたちからの意見が多く、川崎市の子ども参加事業においてサポーターはなくてはならない存在であると思っています。

川崎市子ども会議では、子ども会議が始まってから今まで子どもとサポーター・事務局がともに活動しています。子どもの参加人数の変動やサポーターの人数の変動はありますが、活動が変わらず継続していることは誇れることだと思っています。

2021年11月6・7日には「子どもの権利フォーラム 2021 in かわさき」を川崎市子どもの権利条例施行20年を記念して開催いたします。昨年のフォーラムに続いてコロナ禍での開催となりますが、コロナ禍でもできることを子どもと大人が手を取り合って企画中です。皆様のご参加をお待ちしております。

# NCRC が創り出してきたものは何か —その成果と課題—

## NCRC30 年で大事にしてきたこと

あらまき しげと

荒牧 重人（子どもの権利条約ネットワーク 副代表）

子どもの権利条約ネットワーク（NCRC）は、1991 年の発足当時「組織」で考え活動をする人が多いなかで、個人をつなごう、それも情報を基につなぐことを目指して設置したネットワークである。

個人と情報のネットワークの核心は、この「ニュースレター」である。「ニュースレター」を見れば、その時々国内外の子どもをめぐる状況や取り組みは分かるし（子どもをめぐる厳しい状況だけではなく、そのことに対する取り組みを意識して掲載している）、子どもの権利の観点からどう捉えれば良いのかなどを教えてくれる。諸々の問題を一貫して子どもの権利の視点から取り上げている貴重なものである。

また、1993 年に第 1 回目を開催した「子どもの権利条約フォーラム」もいろいろありながら毎年開催し、国際社会と日本社会、国と自治体と市民社会、主に国内問題に取り組んである団体・個人と主に海外の問題に取り組んで

いる団体・個人、子ども同士、地域と地域などをつなぐこと、ネットワークを目指して、呼びかけ取り組んでいる。

NCRC がこの 30 年で大事にしていることの 1 つは、子どもの意見表明・参加である。このことは、このニュースレター、NCRC のイベント、条約フォーラムなどでも重視してきた。そのなかで実感したことがいくつかある。適切な情報さえあれば（それはおとなが一方的に与えるものではなく、子どもからアクセスも含む）子どもはきちんと判断できる力をもっていること、企画段階から子どもの意見表明・参加が必要なこと、そのためにも見通しを持って「待つ」姿勢やその時間等を保障することなどの大切さである。

NCRC がこの 30 年でどこまで成果を上げているかなどの検証は、これからの NCRC を担う人に委ねたい。NCRC の将来のあり方や活動についても、これからの人に任せたいと思っている。

## 「子どもの権利」という言葉が伝えやすくなってきた —NCRC の 30 年を振り返って

はやし だいすけ

林 大介（子どもの権利条約ネットワーク事務局長）

私が NCRC に関わり始めたのは、2004 年 5 月 5 日のこどもの日に、代々木公園で行われた総会イベントでした。前年度、高校生活最後の文化祭で「子どもの権利条約」についての展示発表を行い、その際、立正大学・喜多ゼミナール作成の『小学生版子どもの権利条約』の冊子を参考にしたことから、報告かねて喜多ゼミ担当者の勝本さんに連絡をしたところ、イベントに誘われました。

また、進学した法政大学で、NCRC の設立者であった永井憲一先生の講義を受け、また、母校での教育実習の時に、永井先生が指導教官として来られたことを、今も覚えています。

1994 年といえば、日本が子どもの権利条約を批准・発効した年で、それから 27 年が経ちました。この 30 年あまり、私自身は特に、子どもの意見表明・参加、そして、市民教育・シティズンシップ教育・政治教育と、子ども自

身が、社会や地域と関わり、参加するための場作りやエンパワメントに関わってきました。この 30 年近くで、やっと「子どもの参加・参画」の必要性が議員・省庁・自治体含めて広がってきたと感じています。

また、児童虐待、いじめ、不登校等を取り巻く環境に対する社会の意識も変わってきたこともあり、「子どもの権利」という言葉が、以前よりは伝えやすくなってきたとも感じています。

とはいえ、“孤立化”を含め、子どもを取り巻く環境は芳しい状況ではなく、かつ、足を引っ張る大人世代がいまだに多いと感じることが多々あります。

だからこそ、市民レベルでの地道な活動の積み重ねが、より重要になってくると思っています。

NCRC を支えてくださった皆様に感謝するとともに、今後も引き続き、ともに歩んでいくことを、願っています。

# 成果は見えにくいもの、課題は自らが発進させるもの

よしみつ おさむ

好光 紀 (NCRC 運営委員)

「子どもの権利条約」が国連総会で採択され、日本政府が批准したものの、文部科学省においては生徒児童へのその趣旨の広報普及にはそれほど力を入れていたようには見られませんでした。当時私は東京都の国際理解教育推進委員に指名されていて年に 5 回ほどは学校を訪問して国際理解教育の活動を展開することができる状態にありました。また、私の勤務するユニセフ協会は全国の学校を訪問し、訪問を受ける立場にありましたので、さまざまな機会を利用しては国際理解の第一歩は相手の権利の尊重から始められるので「子どもの権利条約」については比較的に系統立てて、児童・生徒に加えて会役員と担当教員に伝えることができたと思っています。

子どもの権利条約ネットワークの事務局が港区の海岸通りから六本木に移転したところには内外の講師を加えた数回連続の「子どもの権利条約学習講座」が事務局の運営委員で企画され、ファシリテーター養成講座とか権

利学習のワークショップなども加わって大きく広く開催されました。そして教員、学生、子どもにかかわる公務員、若い主婦層をターゲットに子どもの権利を共に学ぶ基盤ができました。また、小学校 3 年生前後の子どもたちを対象に「出前ワークショップ」は港区の児童館で 15 年も続けられています。

こうした30年にもわたる私たちの活動は国・自治体レベルでの子どもに関する政策に「子どもの権利条約」が少しずつではあるが生かされるように期待を込めて見守っていくしか方法はないものなのだと思います。社会の変化は多くの時間が必要なのでしょう。そしてなによりもその成果は見えにくいものなのでしょう。と言いながら私はこの現状に満足しているわけではありませんので、権利行使の主体である子どもたちに対しては自分たちの権利を今以上に主張していただきたいと期待しております。

## 子どもの権利をめぐる国際動向と NCRC

平野 裕二 (子どもの人権連代表委員・NCRC 運営委員)

NCRC には発足準備段階から関わり、初期のニュースレターの編集を担当したほか、一時は事務局長も務めました。

NCRC が当初から大事にしていたことのひとつは、日本国内だけではなく世界の子どもの問題も視野に入れ、さまざまな団体・個人が行なっている取り組みの交流を図っていくという方針です。

私は NCRC 発足翌年の 1992 年 9 月から十数年、国連・子どもの権利委員会の会期を毎回傍聴し、子どもの権利をめぐる国際的な動向に関する情報をニュースレター等で発信してきました。最近ではさまざまな関連資料がネットで入手でき、委員会の会合もオンラインで中継されるようになったこともあって、日本の報告書が審査されるとき以外はジュネーブに赴くこともなくなりましたが、国

際的視点から子どもの権利について考えるという点では相応の役割を果たしてきたと思います。

NCRC が呼びかけて各地で開催されてきた「子どもの権利条約フォーラム」でも、国内の子どもの権利保障の問題に取り組む団体と、海外の子どもの支援に傾注している団体がともに参加して交流できるよう、さまざまな人たちの協力を得ながら意識的に取り組んできました。

インターネットのさらなる拡大、新型コロナ禍にともなうオンライン会議の活発化などにより、子どもの権利に取り組む市民の国際交流や国際会議への子ども参加の機会も拡大しつつあります。国際会議では圧倒的に英語が共通言語として用いられるため、依然として言葉の壁はありますが、今後も国内外の動向を視野に入れた活動を続けていければと思います。

# 「出前ワークショップ」活動と NCRC

なぐも ゆうた  
南雲 勇多 (NCRC 運営委員)

これまで NCRC では子どもに直接かかわる事業の1つとして、「出前ワークショップ」を実施してきました。以前この NCRC の運営委員をされていた北千加枝さんと清水佳子さんがこれまで中心となってくださり、主には港区の児童館・学童で小学校低学年の年齢に相当する子どもたちを中心に、(その年によって変動はありますが)約2回程度、子どもの権利を学ぶための場づくりとして行ってきたものです。

これまで様々なかたちの試みもありましたが、主には自分の「好きな○○」を考えてみたり、大切なことを描きだしてみることから、自分や他の人の権利について(時には権利という言葉をも明示しない中でも)考えてもらえればと思ってワークをしてきました。

権利の主体である子ども自身が権利について学ぶことが大切なことは言うまでもありません。子どもは「子どもの権利」を知る権利があります。

一方で実際には子どもが権利について知る機会が少ない(もしくは、ない)と感じます。また、知っているも権利や条約について、その言葉だけを聞いて知っているだけの場合も少なくありません。

そういった意味で、子どもの権利を学ぶ機会を創っていくことが重要となるわけですが、そのためには、子どもに権利を知ってもらうことを願うおとなの存在も肝要です。この「出前ワークショップ」も北さんや清水さん、ボランティアの方々、そして児童館・学童の職員の方々とそのつながりがあってこそ実現してきたものです。この場をかりて感謝申し上げます。

NCRC は子どもの権利を実現していく活動を行う団体として、またその一員として私自身も、子どもとともに権利を学ぶことを通し、〈子どもから〉学んでいく必要があります。様々な意味で、子どもが権利を学ぶ機会が今後より増えていくための活動を改めて模索することも求められていると思います。

# 震災下の子ども参加・まちづくりと NCRC

よしかわ きょうへい  
吉川 恭平 (NCRC 運営委員)

大学生時代、子どもの社会参加の活動に関心をもったことがきっかけで、運営委員として関わらせて頂くことになった NCRC。

NCRC の一員として、初めて関わった「長野県茅野市子ども会議」(現在は、茅野市僕らの未来プロジェクト)では、「決まり切った子ども参加」が「子どもが主体となった本当の子ども参加」となる瞬間を見ることができました。最初に参加した子ども会議では、みんな制服で参加し、参加しているメンバーも生徒会を代表して参加しているなど、場の雰囲気も固く、「1 人のまちで暮らす市民として子どもたちの声」を中々聴くことができませんでした。しかし、同じ NCRC の運営委員である南雲勇太さんがファシリテーターとして関わり、何度か子ども会議を重ね、そこに一緒に関わっていく中で、子どもたちが自分のことばでまちのこと、自分の生活から見えることを話し始めたとき、子どもが主体となった子ども参加がどんなもの

なのか、ファシリテーターが子どもに関わることにどんな意味があるのか、初めて感じる事ができました。

そして、東日本大震災発生後、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのスタッフとして、移住後は石巻市子どもセンターらいつの職員として被災地で活動する中で、NCRC を通じてできたたくさんのつながりに助けて頂きました。福祉、教育といった 1 つの分野に止まるのではなく、子どもに関わるすべてを包括的に権利として捉え、その実現を目指す NCRC で得たつながりだからこそ、被災地での子ども支援に取り組む中で、復興に向けた「子どもとまちづくり」に取り組んでいくことができました。

子どもにとって、一番よいことはなにか、子ども自身の声を大切に考える。これは、災害時のまちづくりでも、平常時のまちづくりでも変わらず大切な視点です。これから東北での子ども支援・子ども参加に取り組んでいきますが、その視点を忘れずに活動していきたいと思っています。

# 地域に子どもの権利条約を根付かせたい

すずき まさあき  
鈴木 正昭

(NCRC 運営委員、おおた居場所づくり研究会副会長、  
ソーシャルワークと子どもの権利条約勉強会会長)

NCRC30周年おめでとうございます。自分も「子どもの権利条約」との関わりが20年近くになりました。地元大田区での子ども支援活動の講座で「子どもの権利条約」のワークショップが実施されたのが最初のきっかけでした。

当時、更生保護のボランティア活動を行っていたことから毎年受講していましたが、この「子どもの権利条約」については目から鱗状態でした。数年前にフィリピンのストリートチルドレンのことをTV番組取材で知ったことも大きく、全ての子ども達を対象にした篤いものを凄く感じたのです。

そして、自分が当時関わっていた子ども関係のNPO法人やNGO活動に繋がることも大きく、色々と学べればと六本木のNPOハウスでの連続講座(ファシリテーター養成講座など)に参加して、ゲームやワークショップも行われた楽しい内容に惹かれました。

「子どもの権利条約」を地域に根付かせたいと地元の

講座参加者と盛り上がっていましたが、気がついたら残ったのは自分だけ。それでも将来的に「子どもの権利条約」を地元で普及させたいとの思いから、NCRCの運営委員となりました。時を経て、現在は有志による「おおたっ子条例」を考える会が発足して、現在進行形で皆さんと協議を続けています。

「子どもの権利条約」は知れば知る程、関われば関わる程、心が温かくなります。講座では、「子どもの権利条約」基礎講座を始め、子ども達のことを考え、率先して活動をされてきた皆さんが登壇されて様々な体験や思いをシェアされたり、子ども達の率直な意見や思いに沢山の気付きが有ったり…。次はどんなことが聴けるのか、体験出来るのか、ドキドキワクワクしながら毎回講座を担当しています。定年退職したらもっと率先して動きたい活動です。あと何年なのかな。それまでに先人方のバトンを引き受けられるスキルを身に付けていきたいと思っています。

# 私と「5月イベント」

あらき えつこ

荒木 悦子 (NCRC 元事務局長)

私の NCRC での 30 年間の活動を通してニュースレターの編集、基礎講座の企画などなど、皆様の協力を得て実行できたことに感謝しています。その中で一番印象に残り、一番楽しくて、そして一番大変だったのが5月イベントでした。

NCRC は、設立当時から様々な形のイベントを、5月の総会の日程に合わせて開催していました。1999年の条約採択10周年の年からは、私の希望もあって、私が担当することになり、思い切って子どもに全て任せる企画を立ててみました。子どもの創造力、発想力のすごさ、そして確固たる意見を持っている事など、子育てを通して、また NCRC の活動を通して知り合った子どもたちから教えられていました。そんな彼らに意見表明、参加の権利を実践してもらうことにしたのです。

NCRC が提供するのは会場の確保、外部への公報、経済的負担だけです。後は集まった子どもに任せるという思い切った企画でした。

その都度、新たに応募してくれた子どもたちが、テーマもイベントの形式もすべて決めるのですが、その決め方が大人とは全く違うのです。会議の度にテーマも形式も変わってしまうし、積み上げたものをあっさり捨ててしまうし、どうなる事かと思うのですが、5回目の会議位からばんやりと形が見えてきます。そこからが彼らの創造力のすごさで、参加した全員がイベントに参加でき、テーマに沿

って意見交換できる方法を作り上げるのです。1999年から2011年までの間に9回のイベントを開きましたが、毎回斬新な方法を考えてくれました。その間、口を出さずに「待つ」のが私の仕事でしたが、これが結構大変で、疲れるのです。それでも子どもから学ぶところの多い、とても幸せな経験でした。今、このイベントが中断されていることが残念でなりません。

2009年、採択20周年のイベントに、すでに大人になっているかつての企画者たちに参加してもらいイベントの意味を語ってもらいました。その中の一人の感想の一部です。

「子どもの日常を可視化する」イベントをドンドンして欲しいと言うことだ。すなわちこれまで子どもの日に合わせて開催していた「5月イベント」のように、子どもによるイベントの企画・運営、そのコーディネートは今後も継続して取り組んで欲しい。特に最近NPO活動の現場で感じるのは「もてあましている」中学生や高校生がたくさん居ることだ。社会の中で何かしたいが、その方法が見あたらない、何処に行ってもいいかわからないという子どもは多い。彼らの受け皿となるようなイベントを継続的に展開して欲しいし、全国のNPO(子ども系NPO以外にも)に呼びかけて欲しい。

## 学校は子どもの権利条約を受け入れたのか

ふじい みきお

藤井 幹夫 (元 NCRC 事務局長・子どもの権利条約総合研究所研究員)

私は30年ほど前、高校教員のときに教職員組合に作られた子どもの権利委員会に参加した折に、権利条約を詳しく知ろうと NCRC に関わる中で、子どもの権利保障の理念や、様々な分野での子どもの権利推進の取組を知り、学校への普及の可能性を探ってきました。

そうした経験から、いま、権利条約の4つの柱の視点から学校の現状を見てみると、「生存」、「保護」の権利については、もともと学校関係者(教職員や教育行政)は子どもたちを保護の対象と捉える価値観は強く持っていたこともあり、実施の点では必ずしも十分とは言えませんが、条約の理念については、受け入れられていると言えると思います。

問題は、「発達」、「参加」の権利についてで、現在でも多くは、教師が指導して、引っ張って成長させるという子どもにとっては受身的な発達と、教師が定めた範囲での学習としての参加、つまり、学校は教師主導の下での発達、参加という段階に留まっていて、子どもの自律的発達の余

地や、権利としての学校参加への進展は非常に難しい状況です。

ただ、一方では、学習指導要領で、子どもたちの主体的な学びを重視する視点が大きく打ち出されたり、道徳教育や生徒指導の指針においても、子どもたちの主体性を育てる方向性が国レベルで示されるようになり、子どもの発達観にも転換の兆しは生まれつつあります。また、参加についても、国や教育行政の一部では、校則を見直す際には子どもたちの参加を促すような事例やガイドラインも出されるようになり、権利としての学校参加の方向も見え始めています。

学校での子どもの権利の進展にむけて最大の課題のひとつは、学校関係者の既成の指導観だと思います。子どもたちが自ら成長・発達し、社会参加していくプロセスを「支援」という新たな教師としての面白さ、方法、などは、まだ教師自身が経験していないので、子どもの権利と聞くと、教員としての存在意義に不安を感じるのだと思います。

## 特別寄稿

### 真実を知り、行動し、主張する 戸田真理子

NCRC の 30 周年  
おめでとうございます。

子どもたちが、真実を知り、行動し、主張することは、とても大切なことだと思います。

NCRC の活動は、貴重かつ重大な意義ある社会活動だと思います。

### 子どもが動いた時 (おとなの支援がない時代に、子ども・若者が動いた時代のこと)

菅 源太郎

条約の国連採択翌年の1990年、私は「子どもの権利条約の批准を求める10代の会」を結成しました。同年は兵庫県立神戸高塚高校校門圧死事件の発生などを背景に、学校を中心に子どもの権利侵害を問う動きを、大人のみならず子ども自身も起こしていました。翌91年に設立したNCRCは、子どもの大人のパートナーシップを模索しつつ活動していました。こどもの日イベント(毎年5月)や子どもの権利条約フォーラム(毎年11月)の子ども参加企画をつくるプロセスこそが、パートナーシップにおけた試行錯誤そのものでした。

最近の子ども・若者自身の動きは詳しく知らないですが、たとえば地球温暖化・気候変動に対する取り組みは活発ですし、単純に若い世代が元気ないとは思いません。同時に大学の先生や学生に話を聞くと若い世代はバイトも多く生活に追われ、なかなか自由な時間をもって社会に物申すことが難しいのだと分かりました。こうした意見表明・参加を妨げる社会的要因を取り除くことが重要な課題であり、私なりに努力しようと考えています。

基礎講座で事務局の悦子さんから声をかけていただいたのが、NCRC と私の出会いでした。結婚を期に大学院を卒業し東京に戻るものの、その後どこでどうやって研究・活動をしていこう、と不安を感じながら、「戻ったら連絡してね!」という言葉信じ、ドキドキしながらメールを送った事を今でもよく覚えています。それから15年以上たちましたが、“ネットワーク”の名の通り沢山の繋がりをいただいて、今の自分があると思っています。

竹内麻子  
(元運営委員)

NCRC に出会って、20 年が経ちました。私は、保護観察官として、非行とともにある少年達と過ごしています。私のところに来る時には、支えを失っている子ども達が、保護観察期間に様々な人との出会いを通じて、支えを得、1 人で立つようになる姿に、毎日元気をもらっています。

子ども達が、子ども食堂を手伝いながら、自分の役割を果たし、そこを居場所とする様子を、自分の過去を重ねます。私は、皆様に、一人一人の違いを考慮にいれ、一緒にいることをしていただきました。今はそれを、私がする番です。このことは、子どもの権利条約の理念にも通じ、大人に対しても必要な視点だと、日々感じています。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

制度の変化も、肌で感じているところです。例えば、子どもを殴ることはいけない、と子どもを殴る親が言うようになりました。発達障害の子ども達が、自分の特性を自分の言葉で説明できるように学び、生きています。じゃあ、どうしたらいいか、話ができる時代がきています。制度は万能ではありませんが、それをうまく使えば、今よりもずっと楽に、楽しく生きていけるよ、ということだと思います。

武田 明恵

### 世界中の子ども達の権利が守られる社会になるように

水永啓子

子どもの権利条約ネットワーク 30 周年おめでとうございます。当時、高校生で子どもの立場で関わり、権利条約の Child の和訳を「児童」ではなく「子ども」にして欲しいと官邸で要望書を渡した事等、懐かしく思います。大学卒業後は、バングラデシュやベトナムでも生活し、現在はケニアに住んでいますが、世界中の子ども達の権利が守られる社会になるようにと心から願い、少しでも貢献できればと思っています。

### 子どもの最善の利益を指針

黒山(大井)雅枝

設立 30 周年おめでとうございます。

私が子どもの権利条約を知ったのは PTA 主催の家庭教育学級でした。育児の責任を重く受け止めていた私には、「決定権は子ども自身」という考えに、肩の荷が軽くなりました。

その後、学童クラブの指導員となりましたが、「子どもにとって最善の利益」を指針にし、子どもとも話し合って運営しています。子どもの権利条約ネットワークで得た知識を実践しその大切さを実感する毎日です。

## NCRC 年表で綴る「子どもの権利」の歩み

# 子どもの権利条約ネットワークの30年 —子ども参加を軸としてふりかえる—

喜多 明人<sup>き た あきと</sup> (子どもの権利条約ネットワーク代表)

子どもの権利条約ネットワークは、1991 年 11 月 17 日に設立され、今年の 11 月をもって丸 30 年となります。20 周年のときにもお話ししたのですが、決して順調な歩みとはいえず、つねに青息吐息、弱小の NPO を必死で続けてきた、という印象です。

とはいえ、日本社会と子どもの権利の歩みを紐解いてみると、それなりの成果があったと思います。

NCRC の 30 年の活動の中で、なにが成果として確認できるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。ここでは私の私見として、30 年の活動年表を見ながら感じてきたことを述べておきたいと思っています。

その場合は、この 10 年はポスト震災 (2011 年 3 月 11 日～2021 年) と震災前の 20 年 (20 年史参照) に分けして考えることができます。

まず震災前の 20 年で成果として印象に残っていることをのべて、そのあとにポスト震災の 10 年を振り返りたいと思います。

### 1 震災前の 20 年を振り返る

まず、1991 年の設立時から 20 年までの特徴を示します。(詳しくは、NCRC 編『NCRC 活動からみた子どもの権利の 20 年—何が変わったのか』2012 年 11 月 20 日、参照)

#### 【条約の批准と NCRC の存在意義】

何といってもこの時期は、1994 年の日本政府批准が大きな節目になります。NCRC としては、批准運動の進め方について、あらためて問い直す必要もあると思います。とくに、のちに障がい者権利条約の批准運動と比較されて、「子どもの権利条約批准運動の轍を踏むな」という指摘を受けてきたことをどう受け止めるべきか。「法改正なし」での条約批准を許してしまったことについての総括が必要でしょう。

その際に、「法改正なし」批准を推進してきた当時の文部省が、一方では、「条約＝発展途上国の子ども向け条約」キャンペーンをはり、かつ全国の教育委員会、学校に通知を出して (1994 年 5 月 20 日坂元文部事務次官通知)、条約批准によって日本の学校が影響を受けないよう行政

指導してきたことが挙げられます。この通知は、校則などの管理教育に意見表明権 (12 条) が影響を与えないこと、君が代教育で思想・良心・宗教の自由 (14 条) などが影響を与えないことが強調されており、「文科省と児童権利条約」のホームページに現在でもトップ記事として掲載され続けています。

このように日本の社会、学校に条約が影響を与えないようにしていきたいという政府、文部省など国の動きに対して、むしろ日本の社会に条約を普及し、活かしていくことが大事ではないか、という問題提起をもって NCRC が誕生し、活動してきたことを重視したいと思っています。そこに NCRC の存在意義があったともいえます。

#### 【子どもの権利の実践的研究の展開】

とくに条約が批准された 1990 年代は、条約の注目度が高く、かつ出版業界も好調であったことから、NCRC 関連の出版物も多く刊行されました。NCRC の呼びかけで毎年開催されてきた子どもの権利条約フォーラム実行委員会は『検証：子どもの権利条約』 (日本評論社、1997 年) を編集発行してきました。続いて、子どもの権利と条約の学習・啓発書として NCRC が単独で編集した『子どもの権利条約—学習の手引き』 (日本評論社、1998 年) も刊行されました。

フォーラムの『検証』本では、模擬国連子どもの権利委員会の開催とそのシナリオ (大阪フォーラム 1996) が掲載されています。甲斐田万智子さんが委員長役で、委員会では日本委員 (文部官僚役を喜多がつとめて) が追及をうける場面もありました。

条約批准後の課題となりましたが、1996 年には国連子どもの権利委員会に提出する政府報告に対するオルタナティブレポート作成のために「子どもの権利条約市民・NGO 報告書をつくる会」が発足します。当時、ニュースレターの編集長をしていた平野裕二さんが会の役員となるなど支援をしてきました。しかし、残念ながらイギリスのように民間レベルの統一レポートが作成できずに今日に至っています。NCRC としては、市民レベルでの子どもの権利の検証活動を問題提起してきました。

またこの時期は、海外からフェルファーレン (ベルギー・ゲント州立大学教授)、アダム・ウォパトカ (元最高裁長官・

子どもの権利委員会ポーランド代表)、マルタ・サントス・パイス委員(国連子どもの権利委員会)らが来日して、NCRC との交流を通して子どもの権利、権利条約の理論や歴史を深く学ぶ機会に恵まれました。とくにウォパトカとの交流の中で、なぜポーランドが子どもの権利条約の制定に主導的な役割を果たしたのか、について深めることができたことは有意義でした。

### 【子ども参加支援のとりくみ】

NCRC の初心は、一般的な普及だけでなく、日本の社会、学校に、子どもの意見表明・参加の権利を広げていくことでした。

その意味では、初期の NCRC 活動には注目すべき子ども参加活動がありました。

第 5 回総会イベント「子どもが動く」に象徴される子どもの主体的、自治的な活動があり、これをサポートしてきました。千葉県生徒会連盟・生徒人権プロジェクト「生徒人権宣言」(1994 年)をあげた若者や、大阪「学校に不満を持つ中学生の会」の若者などが主体となって、東京フォーラム 1994 など、「アクション広場」(子どもの自治的な参加行動)が開催されました。

ただし、こうした子どもたちの自治的な参加活動は、1990 年代の条約批准期の特徴の一つです。しかし、2000 年代に入ると、日本の子どもの自己肯定感の低下、能動性の欠如などから、子ども参加も停滞期をむかえて、「参加はめんどろ」派が多数派を占め始めます。そこでは、子どもの参加をおとながどうサポートできるかが実践的な課題になっていきました。子ども参加を支えるファシリテーター養成講座が開始されていきます(2002 年~2010 年ころまで)この養成講座の経験は、川崎市などの子ども会議サポーター養成講座など自治体子ども参加事業にも反映されるなどの成果がありました。

## 2 ポスト震災—この 10 年(2011~2021)の 子どもの権利

この 10 年は、震災で始まり、コロナ禍で終わる、災害に見舞われた 10 年であったと思います。

### 【国際協力団体が国内の子ども支援】

とくに 2011 年 3、11 の東日本大震災のあと、国内外からの支援が始まりましたが、ユニセフやセイブ・ザ・チルドレン・ジャパンなどのような普段国際的な子どもの支援・協力を行ってきた団体が被災地に入って国内の子どもの支援を開始したことは特筆に値します。

また、震災は、子ども参加の現場にも大きな影響を与えました。

### 【子どもが“あてにされる”存在に】

震災でライフラインが崩壊し、多くの住民が被災地に取り残されました。普段は、「子どもの仕事は勉強」と受験勉強に駆り出されていた子ども・若者が、ライフラインの崩壊によって「あてにされる」存在として見直されていきます。中高校生が、被災地住宅の人たちに水や食料を運ぶ姿がよくテレビに映し出されました。

とくに石巻市子どもセンター「らいつ」は、震災復興のま

ちづくりの子ども参加の拠点として注目され、名古屋(こども NPO 当時)から原京子さん(30 周年記念シンポジスト)が子ども参加拠点づくりのために入られて、子どもによる復興のまちづくりが開始されました。その後、子どもセンターは民営化され、NPO 法人子どもにやさしいまちづくり代表吉川恭平さん(NCRC 運営委員・30 周年記念シンポジスト)などによる指定管理により運営されています。当時、指定管理の公開審査に子どもたちが参加し、子どもセンター運営に貢献したことも記録に残しておきたいと思います。

### 【震災が来て救われた】

ニュースレター 119 号(2015 年 3 月 15 日号)で「東北の子どもたちは今」を特集したことも印象深く思い出します。とくに、東京都の教員採用をこたわって石巻の子どもの学習支援に取り組んでいた門馬優さんの原稿「『震災が来て救われた』と言わせてしまう社会の現状」はたいへんショックでした。

「『語弊があるかもしれないけれど、震災がきて救われたって思うんだよ。』

この言葉に出会ってから、もうすぐ 4 年になる。……初めてこの言葉に出会ったときの衝撃が忘れられず、これが私たち NPO 法人 TEDIC の原点となっている。」

「家も流され、大切なものも流され、親戚も亡くし、命からがら避難所に逃げてきた彼が語ったこの言葉の意味はとても重い。実は、彼は中学校入学後に先輩のいじめにあって、まさに震災が起きた当日まで 2 年近く不登校状態にあった。また家族も大変な状況にあり、震災直前には父親がリストラに遭い、家庭は崩壊、姉は家出をして帰ってこない、そんな家庭だったという。

津波から逃げないようにして駆け込んだ避難所、そこで出会ったのが「ボランティア」だった。…ボランティアは、ただただ「うん、うん。」とかならずそばにいてくれた。震災前はずっと家に閉じこもり、家族以外の誰とも言葉を交わさず、心に様々な憤り、不安、思いをひめていた彼が、はじめてありのままを受け止めてもらった瞬間だった。家も、大切なものも、思い出も流されてしまったけど、でも、やっと人と繋がる事が出来て、自分のことを受け止めてくれる人に出会えて、だから自分は幸せだ」と彼は話してくれた」といいます。

### 【コロナ禍—子どもの権利が大切にされる国・自治体】

震災の傷も言えない 2010 年代の終わりに、コロナ感染問題が起きました。

140 号(2020 年 6 月 15 日)で、「新型コロナ問題と子どもの権利」を特集しました。デンマーク・ノルウェー・スウェーデン・フィンランドなどの国では、首相、大臣自らが子どもに対しコロナに関する説明責任を果たすために「子ども向け記者会見」をするなど、日本の首相と際立った違いを見せました。また国内でも、多くに自治体がコロナ禍で閉館する中で、「批判を覚悟で開館を決意」した川崎市子ども夢パーク所長、西野博之さんの実践報告を掲載しました。このコロナ禍の中で、「子どもの権利が大切にされる国・自治体」とそうでない国・自治体との違いが浮き彫りにされたような気がします。

# 子どもの権利条約ネットワーク 30 年の歩み 年表 I (1990 年～2011 年)

| 年月日  | NCRC の活動                                                                                                                                                                                                             | 子どもをめぐる社会の動き                                                                                             |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1989 |                                                                                                                                                                                                                      | ・子どもの権利条約国連採択 11/20                                                                                      |
| 1990 | ○子どもの権利条約ネットワーク設立を目指して集会(カンダパンセ)11/21 ○港区海岸にネットワーク事務所を設置 12/20                                                                                                                                                       | ・条約発効 9/2・条約を日本署名 9/21                                                                                   |
| 1991 | ○第 1 回準備の集い「いま、世界の子どもたちは」5/5 第 2 回「子どもからおとなへ」9/29 ○「子どもの権利条約ネットワーク」創立 11/17(代表 喜多、事務局長 菅)                                                                                                                            | ・子どもの権利委員会初のガイドライン作成 10/15                                                                               |
| 1992 | ○ニュースレター創刊 1/15 ○フェルハーレン教授(ベルギー・ゲント州立大学)来日、懇談 3/25 ○「どうする? こうする子どもの権利条約」5/5 ○設立一周年総会(代表 喜多、事務局長 荒牧) つどい「激論! 子どもの権利条約」11/8 ○アダム・ロバトカ教授(元ポーランド代表)来日、懇談 11/16                                                           | ・「児童の権利に関する条約」閣議決定 3/13 ・子どもオンブズマン研究会発足 5/ ・批准承認案継続審に 6/21 ・国際子ども権利センター発足 9/                             |
| 1993 | ○第 3 回総会& イベント「学校は子どもの権利条約を受け入れますか?」5/5 ○外務省権利条約担当部局と懇談 9/1 ○第 1 回子どもの権利条約フォーラム'93(カンダパンセ) 国会議員らを招いての「子ども公聴会」開催 11/20.21                                                                                             | ・通常国会で批准承認案を採択 5/26<br>・衆議院解散により批准承認案件は再び審議未了、廃案に 6/18                                                   |
| 1994 | ○第 4 回総会& こどもの日トーク「子どもにとって権利条約ってなんだ?」5/5 ○代表委員制設置、喜多明人、永井憲一、津田玄児の 3 氏を承認○トーク「子どもたちに権利条約をどう知らせるか」7/2 ○第 2 回子どもの権利条約フォーラム(国立青少年センター) 「子どもアクション広場」11/5,6                                                                | ・子どもの権利条約日本政府批准 4.22<br>・坂元文部省事務次官通知 5./20 ・条約国内発効 5.22 ・千葉生徒会連盟「生徒人権宣言」公表 11/20                         |
| 1995 | ○「子どもの権利条約から見たいじめ問題」開催 1/21 ○子どもの権利委員会のマルタ・サントス・パイス委員来日、記念講演 3/4 ○第 5 回総会・イベント「子どもが動く」「動かない子ども」の現状と課題 5/5 ○連続学習講座「子どもたちのいま、未来と子どもの権利条約」全 7 回 6/19～ ○フォーラム'95 オリムピックセンター「条約によって子どもの権利は進展したか一条約実施状況の検証」11/18,19        | ・国連人権教育の十年」始 1/1 ・阪神・淡路大震災 1/17 ・住民票記載「長男」から「子」に 3/1 ・地下鉄サリン事件 3/20 ・全国小中学校にスクールカウンセラー配置 7/14            |
| 1996 | ○「子どもの権利条約市民・NGO 報告書を創る会」設立総会 4/7 ○第 6 回総会・イベント「ひろ! げよう子どもの輪」5/5 ○学習講座'96「いかそう! 子どもの権利条約」全 6 回 6/21～ ○フォーラム'96 in 大阪 11/9.10 模擬国連子ども委員会を開催                                                                           | ・「町田市子ども憲章」公表 5/11・神戸事件・中学生逮捕 5/27・コスタリカにて「子どもサミット」開催 8/5                                                |
| 1997 | ○ネットワークトーク「子どもの『性』を考える」3/1 ○第 7 回総会イベント「ひろげよう! 子ども参加の輪」5/5 ○フォーラム実行委「検証子どもの権利条約」刊行 6/20 ○学習講座「子どもの意見表明・参加」全 5 回 7/25～ ○フォーラム'97 in 神奈川 11/2,3                                                                        | ・中野区「教育行政における区民参加に関する条例」制定 3/26・子どもが参加する児童館「ゆう杉並」オープン 9/                                                 |
| 1998 | ○「第 8 回総会・イベント「“キレル”子どもと子どもの権利条約—子どもの人権バッシングに応える」5/10 ○学習講座 3 期制。第 1 期「こどもの“いま”と条約をつなぐ」全 6 回 6/12～ 第 2 期「日本に対する国連子どもの権利委員会の総括所見を生かす」全 6 回 10/3～ ○フォーラム'98 in 福岡 11/14,15 ○初のネットワーク編集の単行本「学習・子どもの権利条約」刊行 11/25        | ・「せたがやチャイルドライン」開始 3/8 所沢高校卒業式ボイコット 3/9 ・『季刊子どもの権利条約』創刊 8/17 ・川西市子どもの人権オンブズパーソン条例制定 12/21                 |
| 1999 | ○学習講座第 3 期「子どもの権利条約 いまとこれから」全 4 回 2/13～ ○第 9 回総会・条約発効 5 周年記念イベント「子どもどうしが手をつなぐには」☆4 つの子どもグループ企画運営担当 5/22 ○学習講座第 1 期「こどもとともに創る」全 4 回 7/3～ ○フォーラム'99 in 東京「子どもの権利実現と国、自治体。NGO のパートナーシップ」シンポジウム「子どもの SOS を受けとめて」11/27.28 | ・「町田市『子どもセンターバーン』オープン 5/5・「児童買春、児童ポルノ禁止法」制定 5/18 ○ILO 総会「最悪の形態の児童労働の禁止、廃絶のための条約」採択 6/                    |
| 2000 | ○学習講座 2 期入門編全 5 回 2/8～ ○総会・イベント「世界の子どもが手をつばぐには」5/21 ○「NCRC ニュースレター」A4 判に紙面刷新 6/15 ○第 1 期学習講座入門セミナー全 5 回 6/30～ ○チルドレンエクスプレス、ネットワーク共催「CE 夏季トレーニング 2000」7/23～8/6 ○フォーラム 2000IN 群馬 11/25,26                              | ・児童虐待防止法制定 5/17 ・武力紛争と子ども売買春等に関する 2 つの選択議定書採択 5/24 ・厳罰化の「改正」少年法制定 11/28 ・全国に先駆け「川崎市子どもの権利に関する条例」制定 12/21 |
| 2001 | ○第 2 期学習講座全 4 回 2/2～ ○総会・イベント「語ろう! 同じフィールドで!!<夢見たものは何でしたか...?>」5/6 ○学習講座第 1 期「子どもの声を活かした社会づくり」全 5 回 6/9～ ○設立 10 周年記念イベント「21 世紀の子ども参加とは」10/13 ○フォーラム in あおもり 11/24.25                                                 | ・さいたま市学校災害救済給付金条例制定 5/ ・池田小小学生殺傷事件 6/8 ・NY 同時多発テロ 9/11・ ・子どもの商業的性的搾取に反対する第 2 回世界会議 12/17～20              |

| 年月日  | NCRC の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 子どもをめぐる社会の動き                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2002 | ○子どもの自主的な参加、諸活動を支えるファシリテーター養成講座全5回 2/14～<br>○総会・イベント「語ろう同じフィールドで！子どもとおとなの境界線」5/6<br>第1回セミナー「子どものための約束はどこまで守られたかー国連こども特別報告」<br>5/17 ○子ども合宿「子どもフォーラム 2002～子どもの権利を学び生かすには」<br>6/22, 23 ○みなと NPO ハウスに事務所移転 7/1 ○第2回セミナー「ファンタジー<br>を遊ぶ子どもたちー子どもたちの夢見る権利を大切に」7/30 ○第3回セミナー「モン<br>ゴルのストリートチルドレン」11/20 ○フォーラム in ちば「Kid's Right's<br>Wave～子どもと市民の参画で世界は変わる～」12/7, 8                             | ・国連子ども特別総会「子どもにふさわ<br>しい世界」採択 5/5～7<br><br>・川西市、第1回「地方自治と子ども施<br>策」全国自治体シンポジウム開催 8/12                                        |
| 2003 | ○ファシリテーター養成講座全5回 3/1～ ○総会・イベント「いろんな視点が未来<br>を創る みんなのキモチをトークちゃんぶる」5/5 ○子どもの権利入門セミナー全<br>11回 5/27～ ○フォーラム 2003in かわにし「みんなで話そう、やってみよう “子ど<br>もとおとなのいい関係” 12/6・7                                                                                                                                                                                                                            | ・たかはま子ども市民憲章制定 11/1<br>・ユニセフ世界子供白書 2003 刊行(テー<br>マは子ども参加)3/                                                                  |
| 2004 | ○子どもの自主的な参加、諸活動を支えるファシリテーター養成講座全10回 3/4～<br>○総会・イベント「忘れてませんか？子どもの権利条約」5/5 ○子どもの権利条約<br>入門セミナー全5回 6/15～ ○フォーラム 2004 いばらき in 取手「おもしろいよ！<br>全員集合 世界の中心で子どもの権利条約をさげぶ」11/20・21                                                                                                                                                                                                               | ・第1回子ども国会開催 4/23<br>・武力紛争への子どもの関与に関する選<br>択議定書日本政府批准 8/2                                                                     |
| 2005 | ○総会(林事務局長選出)・イベント「自分が変われば世界が変わる」5/5 ○子ども<br>の権利条約入門セミナー全3回 6/30～ ○子どもの権利条約入門セミナー「子ども<br>と向き合う」全4回 11/18～ ○フォーラム 2005in しが フリースクール寸劇「子<br>どもに権利を認めるとどうなるか」パネルディスカッション「子どもの権利条約制定<br>の意義」12/3・4                                                                                                                                                                                           | ・子どもの売買、子どもの売買春および<br>ポルノグラフィーに関する選択議定書<br>日本政府批准 1/24<br>・奈良県「声かけ禁止」条例制定 6/30                                               |
| 2006 | ○子ども参加を支援するおとなに求められる「新しい力」をはぐくむファシリテータ<br>ー養成講座全10回 3/11～ ○喜多明人代表宅(目黒区緑が丘)に事務所移転 ○総会・<br>15周年記念イベント「子どもの権利は赤ちゃんから～子育てがラクになるヒント教<br>えます～」5/14 ○子どもの参加ファシリテーター入門ワークショップ～子どもの活<br>動の支援者の技術・役割・姿勢を考える～6/25 ○子どもの権利条約基礎講座全3回<br>7/8～ ○とことん・アイスブレイク 11/3 ○フォーラム 2006in くまもと「子ども<br>の力をうばわないで - わかってほしい！おとなと子どもの間でなぜかムカついている<br>わたしなのです」11/11, 12 ○学習講座「国連・子どもの権利委員会の最新動向報<br>告『意見を聴かれる子どもの権利』 | ・国連子どもの権利委員会「体罰その他<br>の残虐な又は品位を傷つける形態の罰<br>から保護される子どもの権利」に関する<br>一般意見採択 6/2<br>・国連「障がいのある人の権利に関する<br>条約」採択 12/13・教育基本法改正 12/ |
| 2007 | ○総会(赤池事務局長選出)・イベント「しつけ？それとも体罰？～問われる子どもと<br>の向き合い方～」5/13 ○基礎講座 7/14, 20 ○出前ワークショップ全3回 9/21～<br>○子ども参加ファシリテーター入門ワークショップ 10/27 ○フォーラム in ながの<br>「僕らにだって言いたいことがある」11/17, 18 ○出前授業(港区立朝日児童館)5回                                                                                                                                                                                               | ・文科省体罰許容通知 2/5 ・・学校法人<br>のフリースクール(葛飾中学校)開校<br>4/1 ・日本政府「子どもの権利条約に関<br>する第3回政府報告書」提出 4/22                                     |
| 2008 | ○学習会「少年法改正が意味すること」2/28 ○子どもの権利委員会第3回政府報告<br>書提出 4/22 ○総会・イベント「子どもにふさわしい世界+5-18歳を迎えた子ども<br>の権利条約とミニミニ・アクションプランづくり&緊急報告！第3回政府報告書を読<br>むか」5/11 ○基礎講座 7/3, 7/12 ○フォーラム 2008in みえ「つながろう 大切な<br>わたし 大切なあなた」11/23・24 ○出前ワークショップ3回                                                                                                                                                              | ・子ども環境サミット札幌 6/27・29<br>・「第3回子どもと青少年の性的搾取に<br>反対する世界会議」(リオ会議)開催<br>11/25                                                     |
| 2009 | ○子ども参加ファシリテーター養成講座 2/7 ○総会・条約採択 20周年記念イベン<br>ト「子どもの権利条約 子どもの20年」5/17 ○とことん☆アイスブレイク 7/9<br>○フォーラム 2009in とやま「ぼくの権利 わたしの気持ち 聞いてください！子ども<br>の声を」11/14, 15 ○基礎講座 11/28 ○出前ワークショップ4回                                                                                                                                                                                                         | ・最高裁体罰容認判決 4/28<br>・子ども・若者育成支援推進法制定 7/8<br>・「不登校の子どもの権利宣言」8/23<br>・第1回アジアフォーラム 209 ソウル<br>大会 11/20                           |
| 2010 | ○子どもの権利条約総合研究所フォーラム「子どもの権利基本法の制定」を提唱 3/6<br>○総会・イベント「知ろう・行動しようー未来を築くための子どもの権利条約」5/16<br>○国連子どもの権利委員会審査報告会 6/20 ○子ども支援専門職の力を育むファシ<br>リテーター養成講座全3回 9/25～ ○基礎講座 10/16 ○条約啓発リーフレット<br>「子どもの権利条約ってなに？」完成(ニュースレター100号記念) 10/20 ○フォ<br>ーラム 2010in みやぎ「子どものことは子どもに聴こう」11/13, 14 ○出前ワークシ<br>ョップ2回                                                                                                | ・国連子どもの権利委員会、第3回日本<br>政府報告審査 5/27、総括所見採択<br>6/11 ・韓国京畿道全国初の「児童・生<br>徒人権条例」制定 9/17                                            |
| 2011 | ○総会・イベント「みんなが知らなかった、地球環境を知る」5/8 ○フォーラム 2011in<br>広島「子どももおとなもしあわせな町づくり」11/12, 13 ○子どもの権利条約ネット<br>ワーク設立 20周年記念イベント 12/4 ○出前ワークショップ                                                                                                                                                                                                                                                        | ・東日本大震災・原発事故 3/11<br>・第2回アジア子どもの権利フォーラム<br>2011 日本大会「子どもにふさわしい世界<br>の創造」11/20・21<br>・国連「通報手続きに関する子どもの権<br>利条約の選択議定書」採択 12/19 |

## 子どもの権利条約ネットワーク 30 年の歩み 年表Ⅱ (2012 年～2021 年)

| 年月日         | NCRC の活動                                                                                                            | 子どもをめぐる社会の動き                                                                                                                                                                                                                |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>2012</b> |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                             |
| 5. 27       | 総会・5 月イベント：「東日本大震災」から 1 年以上過ぎて『節電大事』『1 年間で変わったこと』『気仙沼の子どもたち』の各テーマでグループトーク                                           | ・生徒シンポジウム 2012 3/31<br>・「世界一大きな授業＝世界中の子どもに教育を」4/24<br>・第 2 回東北子どもまちづくりサミット 5/5<br>・「オルタナティブ教育法」を実現する会設立 7/8<br>・第 9 回子ども国会「社会に響け、ぼくらのことば」8/16・17<br>・C-Rights 設立 20 周年記念イベント 11/17<br>・2012 都知事選&衆院選“let's もぎせんきょ” 12/13・14 |
| 6. 16       | 第 1 回子どもの権利条約基礎講座(荒牧重人)                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                             |
| 7. 14       | プレフォーラム<br>午前の部 おとな企画・学習会 子ども企画・交流会<br>午後の部 子どもとおとな企画・ワークショップ                                                       |                                                                                                                                                                                                                             |
| 10. 26      | 第 2 回子どもの権利条約基礎講座                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                             |
| 11. 24・25   | フォーラム 2012 in あいち<br>☆公開！しゃべり場「子ども×おとな＝未来」                                                                          |                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>2013</b> |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                             |
| 3/1・4/14    | 子どもの育ちを支えるファシリテーター養成講座                                                                                              | ・東日本大震災子ども支援ネットワークシンポジウム 1/13<br>・いじめ問題の解決に向けて 10 の提言 3/9<br>・シティズンシップ教育フォーラム 3/17<br>・いじめ防止対策推進法成立 6/21<br>・僕らの一歩が日本を変える「全国一斉模擬選挙」7/21<br>・子ども夢パーク 10 周年記念フェスタ 12/1                                                        |
| 5. 12       | 総会・プレフォーラム「あなたの声をみんなで聴きます」※子ども 21 名おとな 111 名計 132 名参加                                                               |                                                                                                                                                                                                                             |
| 7. 13       | 子どもの権利条約基礎講座                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                             |
| 11.16・17    | フォーラム 2013 in TOKYO 於オリンピックセンター～批准 20 年に向けた一歩として～※しゃべっていいとも！子どもの権利っていったい何だろう？※シンポジウム「子どもの権利の今、そしてこれから」              |                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>2014</b> |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                             |
| 4・22        | 子どもの権利条約批准 20 周年批准記念の集い&記者会見「子どもの権利条約の実施と普及を進める声明」                                                                  | 子どもの権利条約批准 20 周年を迎える<br>・障害者権利条約批准 1/20<br>・第 1 回オルタナティブな学び実践交流会 2/1・2<br>・モンゴルにて「第 3 回アジア子どもの権利フォーラム」8/23・24<br>・韓国光明市「IDEC 世界民主教育大会」7/28～8/3<br>・パキスタンのマララさん「ノーベル平和賞」受賞<br>・「特別の教科 道徳」10/                                 |
| 5・25        | 5 月イベント「子どもの権利条約って、何だろう？」                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                             |
| 7. 19       | 特別企画「大田堯さんに聴く」<br>＜子どもの権利トークカフェ＞開催 第 1 回サドベリースクール×子どもの権利 6/28 第 2 回不登校の子ども×子どもも権利 7/26                              |                                                                                                                                                                                                                             |
| 7. 19       | 子どもの権利条約基礎講座                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                             |
| 11. 16・17   | 子どもの権利条約フォーラム 2014 「しゃべろう！知ろう！発信しよう！わたし×あなた×私たちの権利 ☆各地域フォーラムと連携<br>関西フォーラム/ながのフォーラム/熊本フォーラム/石巻フォーラム/宮城フォーラム/富山フォーラム |                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>2015</b> |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                             |
| 2. 6・7      | 第 3 回多様な学び実践フォーラム/第 8 回 JDEC                                                                                        | ・第 2 回オルタナティブな学び実践交流研究集会 in 関西 2/7・8<br>・川崎「男子中学生殺人事件」2/20<br>・公職選挙法改正・18 歳選挙権実現 6/17<br>・インドネシア「プレアジアフォーラム」7/12<br>・「全国自治体シンポジウム 2015 西東京市」                                                                                |
| 4. 19       | プレフォーラム：子どもの参画できる復興まちづくり                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                             |
| 5. 24       | 総会・イベント(石巻から高校生大学生が参加)<br>＜子どもの権利条約基礎講座＞2/14&7.5                                                                    |                                                                                                                                                                                                                             |
| 11. 21・22   | 子どもの権利条約全国フォーラム in 石巻「どこにいてもつながっている」                                                                                |                                                                                                                                                                                                                             |

|                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2016<br>1.<br>5. 14<br>10. 1<br>10. 22<br>12.10.11 | <p>座談会「家庭内における主権者教育」司会：林大介</p> <p>総会・イベント「18 歳選挙権と子どもの権利条約～子どももおとなも主権者～」</p> <p>基礎講座</p> <p>子どもの権利条約フォーラム in 関西プレフォーラム<br/>「学校は地域の子どもも支援とどうつながるか」</p> <p>子どもの権利条約フォーラム 2016in 関西「知る⇒変わる⇒動こうや～子どもが変える・おとなが変わる・しくみは変わる～」</p>                                                                                                                                                                                                    | <p>・施設・里親を巣立った子どもの自立シンポジウム 1/31</p> <p>・多様な学び実践研究フォーラム 2/6・7</p> <p>・児童福祉法（総則 3 項等）改正 5/27</p> <p>・国連子ども権利委員会初日本人選出 6/30</p> <p>・第 13 回子ども国会 8/11.12</p> <p>・第 4 回アジア子どもの権利フォーラム（インドネシア） 11/23.24</p> <p>・普通教育機会確保法の 12/7</p>                                          |
| 2017<br>5. 19<br>7. 29・30<br>10. 28<br>12. 23      | <p>総会・イベント パネルディスカッション「生徒会の可能性とこれから」</p> <p>信州・関西・愛知の子ども実行委員らで交流合宿</p> <p>基礎講座</p> <p>子どもの権利条約フォーラム 2017in 信州「信じよう！子どもの力、大人の心」基調講演：前川喜平「子どもが学校不適応でなく、学校がこどもに不適応」<br/>&lt;NCRC 出前ワークショップ&gt;派遣 3 回</p>                                                                                                                                                                                                                         | <p>・「子どもの現場から考える子どもの権利」 5/21</p> <p>・国連子どもの権利委員会へ第 4・5 回統合報告書提出 6/30</p> <p>・APDEC・アジア・太平洋フリースクール大会 8/1～5</p> <p>・かわさき子どもの権利フォーラム結成 8/20</p>                                                                                                                           |
| 2018<br>5. 13<br>11. 3・4                           | <p>総会・イベント高校生とともに考える「学校のルール・きまり どう変える？どこを変えたい？」<br/>&lt;連続講座 2018&gt;</p> <p>第 1 回条約の基礎を学ぶ①(荒牧重人) 6/30 第 2 回全国に子どもの町を創る(中村桃子) 7/28 第 3 回外国の子ども若者の特徴と国連子ども権利委員会(平野裕二) 9/15 第 4 回子どもの権利条約の基礎を学ぶ②(荒牧重人) 10/20</p> <p>&lt;栃木県内 5 か所でプレフォーラム&gt;7/29 足利。9/15 宇都宮、10/2 那須塩原、10/14 日光、10/21 小山</p> <p>子どもの権利条約フォーラム 2018in とちぎ「知ろう！聴こう！伝えよう！みんなが未来の主人公」 基調講演：荘保共子「子どもが生きる力を守る～子どもの貧困と子どもの権利」<br/>&lt;NCRC 出前ワークショップ&gt;6/26 7/23</p> | <p>・国連・子ども権利委員会、日本政府への事前質問事項を採択 2/5～9</p> <p>・コスタリカの模擬選挙、民主主義教育、平和教育に関する現場視察(林大介)2/</p> <p>・多様な学び実践研究フォーラム「子ども、若者が“生き方”を語る」2/24・25</p> <p>・CFC とネパールの子どもたち サンウォル市子どもクラブ代表・副書記長に聞く</p> <p>・第 15 期遊佐町少年議会「これからのまちと子ども議会」</p> <p>・キックオフミーティングフォーラム in とちぎ実行委員会開催 4/22</p> |
| 2019<br>4. 22<br>5. 24                             | <p><b>子どもの権利条約採択 30 年、日本批准 25 年</b></p> <p>子どもの権利条約キャンペーン開始宣言</p> <p>総会・イベント：&lt;連続講座&gt;</p> <p>第 1 回 坪井節子「日本の子どもの現実－何が変わったのか」5/24 第 2 回 西野博之「生きづらさをかかえた子どもたちと向き合う」6/21 第 3 回 天野秀昭「冒険遊び場がめざしてきたもの」7/26 第 4 回 奥地圭子「不登校の子どもの権利はどこまで前進したか」9/20 第 5 回 甲斐田万智子「子どもの参加を軸にした子どもの権</p>                                                                                                                                                | <p>・国連・日本に虐待対策強化や子どもの参加の推進を勧告(総合所見)採択（適切な安全基準、虐待対策の教科や体罰の全面禁止が求められ、福島原発事故の影響や気候変動への対応など新たな問題も取り上げられた）2/1</p> <p>・東京都子供への虐待の防止等に関する条例可決 4/1</p> <p>・フリー・ザ・チルドレン企画「子どもたちからの提言」</p>                                                                                       |

|                                              |                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11. 1<br>11. 16・17                           | <p>利実現」11/1</p> <p>改訂「子どもの権利条約ってなあに？」25000部発行</p> <p>国連採択 30 年 日本批准 25 年記念フォーラム「みんなで考えよう“自分らしさ”ってなんだろう」トークセッション：春名風花 リレートーク：子ども若者から伝えたいこと</p> <p>&lt;出前ワークショップ&gt;2回</p>                                                       | <p>っと学んでください。4/22</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省通達「普通教育機会確保法」に基づき不登校政策を転換 10/25</li> <li>・とちぎ子どもの権利条約(=とちこど権)設立総会 12/15</li> <li>・スコットランドのオンブズパーソン、ブルース・アダムソン氏来日 12/</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                   |
| 2020<br>2. 16<br>7. 13<br>10. 3<br>11. 14・15 | <p>条約を基礎から学ぶ基礎講座</p> <p>総会（オンライン）</p> <p>ZOOMを使ったオンライン基礎講座</p> <p>子どもの権利条約フォーラム 2020 in 南砺「なんとキッズライツフェス」 基調講演：尾木直樹「コロナ時代を子どもとともに生きる」☆オンラインで全国の子どもの意見交換会</p> <p>&lt;出前授業&gt;ファシリテーター派遣 2 回</p>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス拡大・全国一斉休校要請 2/27</li> <li>・セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンによる「2020 年春・緊急子どもアンケート」</li> <li>・デンマークのフレデリクセン首相による新型コロナウイルスに関する子どものための記者会見 3/13</li> <li>・親による子どもへの体罰禁止施行 4/1</li> <li>・全国初不登校の子どもの私立小学校開校 4/</li> <li>・国連・子どもの権利委員会「新型コロナウイルス感染症に関する声明」発表 4/8</li> <li>・日本財団「子ども基本法」の提言書公表 9/</li> <li>・ユニセフ・幸福度調査で日本は 20 位 9/3</li> <li>・佐賀県弁護士会「中学校校則の見直しに関する提言」発表 10/</li> </ul> |
| 2021<br>4. 22<br>5. 29<br>6. 20<br>11. 6・7   | <p>広げよう！子どもの権利条約キャンペーン政策提言</p> <p>子ども基本法に関する提言：院内集会</p> <p>NCRC 設立 30 周年記念総会(オンライン)</p> <p>イベント「子ども参加の現状と課題～日本の子ども参加－何が変わったのか？」ゲスト：奥山桂子・半田裕、原京子、吉川恭平、圓谷雪絵</p> <p>子ども基本法に関する子どもの意見表明：院内集会</p> <p>子どもの権利条約フォーラム 2021 in かわさき</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法制審議会部会、答申の中間試案「懲戒」文言削減発表 2/9</li> <li>・東京都に「こども基本条例」成立 3/26</li> <li>・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン政策提言第 2 次案 4/22</li> <li>・自民党による「子ども庁」の提言 5/31？</li> <li>・子どもに関する新たな省庁創設の議論に関する共同声明 6/15</li> </ul>                                                                                                                                                                              |

# 手を取り合ってにじいろの未来へ笑顔で歩もう！ —コロナに屈せずに

まえかわ ゆう た

前川 友太 (子どもの権利条約フォーラム 2021 in かわさき実行委員長)

## 【コロナの中で奮闘】

2021 年 4 月に発足した子どもの権利条約フォーラム 2021 in かわさきの実行委員会(実行委員長 山田雅太・前川友太・高尾知永・福井聖太)は、毎月一度の会議を開き、フォーラムの開催に向けて準備を進めている。とはいえ、予想だにしないコロナの感染爆発により、8 月 22 日に開催するはずだったプレフォーラムの延期を行うなど、非常に難しい状況のなかで運営を行っている。しかし、プレフォーラムの延期を決める子どもグループ会議では「これまでやってきたことを無駄にしたくない」や「完全オンラインでもできるように工夫したい」など、前向きな意見が多く出た。こうした前向きな意見をもとに、参加者の皆さんに「参加してよかった」と思えるフォーラムを開催していきたい。以下、本稿では、原稿執筆した 8 月 29 日現在のフォーラムの概要について記す。コロナの感染状況や今後の実行委員会での議論によっては、内容が変更することをご容赦いただきたい。

## 【進むフォーラム企画について】

さて、フォーラムは 2021 年 11 月 6 日・7 日に開催する。

11 月 6 日は、全体会を行う。全体会では、冒頭のオープニングセレモニーでは映像や合唱を披露する。また、福田紀彦川崎市長に挨拶をいただく予定である。挨拶後、山田雅太実行委員長より「川崎市子どもの権利条例 20 年を迎えて」と題し、基調報告を行う。2001 年に日本で最初に子どもの権利条例が施行された川崎市の歩みを振り返り、今の川崎の抱えている課題や今後の展望などについて話す。その基調報告を受けて、全体会のメインプログラムは「子どもたちが語る子ども参加のいま」と題し、全国の子ども参加を行っている団体(例えば、子ども会議など)にお声がけして、それぞれの活動報告と子どもたち自

身が子ども参加の今についてディスカッションする。現在、川崎市内・市外の 10 団体程度の参加を予定している。全体会では、以上のプログラムを検討しており、川崎市の 20 年の歩みとともに、子ども参加の現状を知ることができる。

翌日は、3 会場に分かれて、総計 22 分科会を開設する。22 個の分科会で子どもの権利について、そのすべてが語れるとは思わないが、「子ども食堂」・「外国人」・「子ども参加」・「学校」・「外遊び」・「LGBTQ」・「里親」・「権利学習」などなど多様なテーマの分科会を運営する。幅広いテーマを扱う方針となったのは、実行委員会に先立ち開かれた準備委員会の場において、川崎市の特徴の一つである「多様性」を打ち出したいというコンセンサスを得たからである。分科会のなかには、フォーラム実行委員会に参加している子どもメンバー(上述の子どもグループ)が企画するものもあり、川崎の子どもたちと話せる機会となっている。また、午後の分科会終了後には、クロージングを行う。小田嶋満川崎市教育長にご挨拶いただく予定である。

## 【手を取り合ってにじいろの未来へ笑顔で歩もう!】

このように、フォーラムの 2 日間は盛りだくさんの内容である。2 日間を通して、子どもの権利についての考え方を広めるのと同時に、全国各地で実践している各団体や個人の方々との交流を促進していきたい。

最後に、このフォーラムのスローガンを紹介して閉筆したい。

「手を取り合ってにじいろの未来へ笑顔で歩もう!」

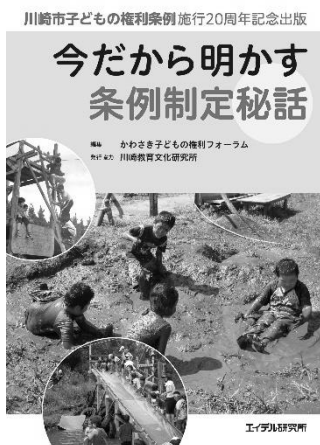
このスローガンは、子どもグループがフォーラムを終えた参加者の方にどうなってほしいか、ということをイメージしたものである。コロナによって先が見えない中、フォーラムに参加することでスローガンを達成し、明るい未来を創っていかうとする子どもたちの強い願いが込められている。

## 本の紹介

川崎市子どもの権利条例施行 20 周年記念出版

# 今だから明かす 条例制定秘話

■編集 かわさき  
子どもの権利フォーラム  
■編集協力  
川崎教育文化研究所  
■発行  
エイデル研究所  
■ 2021年6月29日  
A5版154頁  
■ 1400円+税10%



はしがき

ーこの本を読まれる方々へ(山田雅太)

- I 子どもと語る子どもの権利条例制定秘話
- II 子ども夢パーク・フリースペースえんの誕生秘話
- III 全国初の子どもの権利条例はなぜ生まれたのか  
(小宮山健治)
- IV 子どもの権利と支援の仕組みはどう創られてきたか  
ー子どもの権利の普及・啓発、参加、相談・救済、行動  
計画、検証を中心に  
(荒牧重人)

ハウツーものかと思って手にした秘話本だったが、読むにつれてこの本が条例づくりのテクニックをはるかに超えたものだと思った。奇跡にも近い条例の誕生と夢パークの設置は、子どもたちの思いと市民の自発的エネルギー、学識者の支援、なかでも行政職員(教員職含め)の覚悟さえ感じる高い志、多くの力のベクトルが、ひとを大切にしたい社会をつくる共通の熱い思いをもって出会った中から生まれた必然のたまものだったと分かった。

条例は通り一遍の作文ではない。本音を語り合い、意見の違いを認め合い、そうであればこそこの制作過程で今に語り継がれる「まずおとなが幸せに」という言葉も生まれたのか。

歴史は時計のような単調な刻みと違って、濃い薄いがある。2000 年条例制定の数年前から 2003 年夢パークの 5 年の濃さはいまの何倍もあったと感じた。

私は川崎のもう一つの先進的社会教育の取組である地域教育会議の中で子ども会議の活動を続けてきた。条例誕生当初の熱は次第に平熱となり、子ども参加受難の時期を耐えてきた。それでも火は燈し続けてきた。20 年の月日がたった今、子ども参加の広がりをめざした改めての仕組みづくりを検討する時期か。当時の熱い思いを思い起こしながらまた新たな明日に向かって、歩み直していきたい。

(川崎区地域教育会議 議長 宮越隆夫)

## 編集後記

NCRC30 周年記念の特集号をお届けします。ニュースレターは 145 号、もうすぐ 150 号にもなろうとしています。このニュースレターは、荒牧さんのご指摘にもある通り、情報を通して個人と個人をつなぐ役割があり、子どもの権利条約を起点とした市民活動を広げていく要というべき存在でした。今回、NCRC30 年の年表をまとめていく際にも、ニュースレターが大きな役割を果たしてきました。生きた子どもの権利の歴史がニュースレターに刻まれてきたといえると思います。今後ともよろしくお願いします。(A/K)

## 「子どもの権利条約」NO.145 号 2021 年 9 月 15 日発行

★発行(季刊・年4回)  
子どもの権利条約ネットワーク  
Network for the Convention on the  
Rights of the Child  
〒152-0034 東京都目黒区緑が丘 2-6-1  
TEL&FAX 03-3724-5650  
Eメール info@ncrc.jp  
ホームページ <http://www.ncrc.jp/>

★発行人 喜多明人  
★編集人 喜多明人・宇原佐知子  
★年会費 5000 円 学生 3000 円  
18 歳未満 1000 円  
＊郵便振替 00180-2-750150  
＊ゆうちょ銀行 〇一九店  
当座 0750150  
コドモノケンリジョウヤクネットワーク

★印刷 (株)第一プリント